保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人桜美会
施設名	駅東さくら保育園
報告者（役職）	小井　裕司（園長）
住所・連絡先	栃木県小山市駅東通り 1-2-50
	☎　0285-38-6709 E-mail　ekihigashisakura@ad.wakwak.com

〇タイトル（保育計画）

心・身体が踊る室内パーク！～飛んだり・跳ねたり・笑ったり～

〇主な助成備品

はいはいスケルトンネル、ラッコのあんよクッションマット等運動遊具

１．保育計画策定の目的

駅東さくら保育園は、令和３年４月１日、小山市より委託を受け、社会福祉法人桜美会が運営を始めた０・１・２歳児を対象とした認可保育園です。施設は小山市によって整備され、JR 宇都宮線小山駅東口の分譲マンション２階部分にあります。駅に隣接するマンション内に位置していることから、マンション住人だけでなく、駅を利用して通勤する子育て世帯に利便性の高い保育施設となっております。その一方で、マンション内の保育施設であることから、保育園専有の園庭がありません。子どもたちがのびのびと運動遊びを行うには、交通量の多い道路を通り、歩いて近隣の公園へ出かけなければなりません。子どもの健やかな成長・発達には、運動遊びが欠かせません。子どもたちが安全かつダイナミックな運動遊びを楽しめるように、また子どもの身体を動かしたいという想いが十分に発揮できるように、天候に左右されない室内パークを作りたいと考え、計画を策定いたしました。

２．具体的な実施内容

保育室の１室に助成いただいた８種類の運動遊具をサーキット状に配置し、子どもたちが繰り返しながら様々な遊具に親しめる室内パークを設置しました。

サーキットは、高低差の少ない０～１歳低年齢児用の「ゆったりサーキット」と高低差がやや大きい１～２歳高年齢児用「ちゃれんじサーキット」の２コースを基本としました。どちらのコースを楽しむかは子どもたちに委ね、保育士は危険がないように見守ります。子どもたちは天候に左右されることなく、のびのびと安全に、そして主体的にサーキット遊びを楽しんでいます。

【ゆったりサーキット（０～１歳低年齢児用)】

1. テントウムシのハイハイクッション（スタート）

子どもたちに馴染みのあるテントウムシをモチーフにしたハイハイクッションからサーキットがスタート。クッションのやわらかな感触を楽しみながら「よいしょよいしょ」と階段を登ります。途中、鏡に映る自分の姿に気づく子どもがいます。「誰だろう？」と不思議そうに覗いています。

２．ハイハイおやま

少し高いおやま状の遊具です。はじめ勢いよく登った子どもも下りはそーっと安全に降ります。慎重派の２歳児（右端写真）もこれなら安心と０・１歳に混ざって楽しんでいます。

３.ハイハイブロックトンネル

カラフルなトンネルくぐり。全方向に窓があるので、暗くないから安心です。中に隠れて「いないいないばあっ！」　子どもも保育士もみんな笑顔です。

４．ラッコのあんよクッションマット

坂を登ると滑り台が待っているラッコのクッションマット。気持ちよさそうに次々と滑っていきます。両サイドの手すりは、時にお池に早変わり。子どもの自由な発想でコースが違う姿に変化するのも面白いです。ここが終わると、また１の遊具へ戻ります。

【ちゃれんじサーキット（１～２歳高年齢児用）】

１．かめさんソフトクッションウォーク（スタート）

かめの形をした階段と滑り台が付いたソフトクッション。甲羅に付いているカラフルなクッションは、そこを足場として登ることができる作りにもなっています。子どもたちは階段から登ったり、横から登ってみたり、自分で工夫をしながら繰り返し楽しんでいます。

２．ハイランドおやま

ゆったりサーキットのハイハイおやまより大きな高低差のあるおやまです。低いハイハイおやまに慣れた子どもたちは、このハイランドおやまのより高い頂を目指します。ハイランドおやまの登頂に成功すると何とも満足そうな顔で下を見下ろす子どもたちです。

３．はいはいスケルトンネル

透明なビニールで覆われた長いトンネルです。伸縮してトンネルの長さが変えられるので、怖くなっても大丈夫。短くできます。慣れてくると、トンネルの中でくつろいで寝転がったり、お友達とお話したり。まるでテントの中にいるようです。

４．のぼってくぐってブリッジ

太鼓橋の形状なので降りるのに少し勇気が要りますが、「どうやったら降りられるな？」と自分で考えながら慎重にクリアしていきます。先に上手にできた子の姿を見たり、子ども同士でコツを伝えあったりしながら次々に挑戦者が増えていきました。

３．その成果と評価

保育園に誕生した室内パークに子どもたちは大喜び。期待通りの反応に、園長の顔も保育士たちの顔もほころびます。早く遊びたい気持ちが高まりますが、まずは子ども同士の衝突がないように、少人数で遊ぶことから始めました。少しずつ遊具の遊び方を覚えながら、みんなで楽しく遊ぶにはどうしたらよいか、保育士と一緒に考えていきます。「両方向からいっぺんに登ったら、ぶつかっちゃうね」「前の人を抜かすとびっくりしちゃうね」・・・トラブルが生じた際は、１つ１つ丁寧に子どもの気持ちを傾聴しながら、よりよい方法を子どもたちと考えることを大切にしました。保育士が先回りをしてルールを作って教えるのはなるべく控えます。こうした取り組みを繰り返し行うことで、子どもたちは楽しく遊ぶ方法を自然に見つけていきました。いつの間にか事前のもくろみ通り、一方向に進むルールができ上がっていきました。申請当初は、交通量の多い道路を通って公園に行くことを避けるため、また雨天や日差しが強すぎるなどの天候に左右されない遊び環境を作るために室内パークを計画しました。しかし今回はそれだけでなく、室内パークで遊ぶことを通し、子どもたちが主体的に考える姿、保育士と一緒に考える姿が生まれるという、より大きな成果も生み出すことができました。このことは当初予想していなかった大きな成果といえます。

４．今後の課題と展望

当園は令和３年４月１日に開園しましたが、開園以来、新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けることとなりました。そのため、事前に計画していた、さくら保育園（本園）と城山さくら保育園（姉妹園）との園児交流が実現できずにいました。また地域交流の場として施設の開放もできない状況にありました。新型コロナウイルス感染症が５類へと移行し、行動制限が緩和された今、これらの計画を実現していきたいと考えています。その計画の大きな目玉として、室内パークを有効に活用したいと思います。室内パークで園児たちが交流する姿や、地域の子育て家庭が子どもを連れて楽しく遊ぶ姿を楽しみに、今後も室内パークを大切に利用していきたいと思います。

以上